令和８年度　　第２回　学校運営協議会〔記録〕

佐野市立佐野小学校

令和８年 10 月 20 日

参加者 ： 学校運営協議会委員６名（校長を含む）、酒井 CSAD、
ふれあい学習課１名、教育総務課３名、教職員２０名　　（計３１名）

開　会

【あいさつ】（校長より）

・教育目標や児童の様子、意思表示をはじめ日頃重点的に育んでいる力やその取組について

【授業参観】（5 校時）

・自由参観

【説明】（学力向上・児童指導の状況と取組について）

・本校の学力向上の取組について学習指導主任より、児童指導の状況及び取組について児童指導主任より配布資料を基に説明

〈質疑〉委員① ： インターナショナルスクールの児童については、佐野小への出席がなくても進級することはできるのか。

児指主 ： 毎月１回は担任と放課後の時間に面談をしており、その日は出席となる。児童と話をしたり学習をしたりしていて、進級させている。

委員② ： 児童間のトラブルやいじめはどのようなものが多いのか。

児指主 ： LINE のやり取りの中でのトラブルや児童同士の関わりの中での認識の違いなどにより起こるトラブルなど、さまざまである。

委員③ ： 説明にあったとおり、研究授業は全教員が年に１度実施ということなのか。

学指主 ： 指導案を作成して行う授業を、年に１回は全教員が行うこととしている。（作成した指導案の検討会を経て授業を行い、事後には研究協議を行う授業のこと。）

【熟議】（グループ交流トーク）

ファシリテーター ： 佐野市コミュニティ・スクールアドバイザー
宇都宮大学名誉教授　　酒井一博先生

〔テーマ〕「学校と教師の業務の３分類」について

・子どもの安全と学びを守りながら、教員の負担を減らし、子どもと向き合う時間、子どものための業務を行う時間を確保するための方法を一緒に考えていけたらと思います。

〔ねらい〕 ① 委員の皆さんと教職員がお互いを知り、日常的に相談したり、協力し合ったりすることができる関係を築く。
② 「業務の３分類」を通して学校の現状を知っていただき、教員が本来の教育活動に専念できる環境づくりに向け、協働の手立てについて熟議する。

〈グループ発表〉

・ICT に関する業務（タブレットの管理等、煩雑な業務）
→ 業者や専門家による管理を市教委へ要望
・学校の運動施設・設備、トイレの管理（プール清掃・水質管理、校庭の整備等）
→ 外部委託を市教委へ要望
・部活動（陸上競技の種目ごとの見守り・指導補助等）
→ 保護者、学校支援ボランティアの方にお願いする
（経験者でサポート可の人材を募集）
・登校時の教員による交通指導
→ 保護者への説明、理解を得る
（教員は学校で児童を迎え入れる準備に徹することができるようにしたい）
地域ボランティアへお願いする（一部の町内で支援していただいている）
・小動物の飼育（ウサギ 10 羽）
→ 譲渡できるところを見つける
ボランティアの方に土日祝日の世話をお願いする
・給食配膳、休み時間、図書の貸出、新入生等の補助
→ 学校支援ボランティアの方にお願いする

閉　会

○ 学校運営協議会委員の皆さんとの交流は、教職員の業務や学校の現状について知っていただき、情報共有をしながら、協同していくことができる体制づくりについて話し合うことができ、有意義な機会となった。
○ 今後は、教職員が児童のための業務に専念できる環境づくりに向け、地域コーディネーターと更に連携を深め、今回出された意見を基に、実現可能な取組から検討を進めていきたい。
○ ファシリテーターとして熟議を進行してくださった先生の、「まずは現場の先生が元気であること。それが子供たちや学校の元気につながる」という言葉のように、先生方が元気に働き、その元気が子供たちや学校全体に広がるよう、学校運営協議委員や保護者の皆さんと協働していきたい。